

取引先の業績が悪化した

Q. 取引先の業績悪化に対しては、どのように対応すればよいか？

要旨 取引先の業績悪化の兆候を見逃さず、影響を最小限にとどめる必要があります。取引先に不良債権が発生した時は必ず相手に状況を聞きます。教えてもらえない場合は取引継続について考えておくことが必要です。小口でも頻繁に発生するようであれば注意し、保全を図ること、場合によっては取引縮小や中止も視野に入れて対応します。

解説

1. 兆候をつかむチェックポイント

兆候をつかむポイントとして、①普段から最新の信用調査をチェックする、②社内の連携を密にする、の二つの点が挙げられます。

定期的な外部信用情報の更新と営業担当による観察で変化の兆候を把握します。関係部署から、支払ぶりが悪い、契約の履行状況が悪い、などの情報が入ってくるので社内での意思疎通が大切です。信用調査会社の評点だけでなく、実際の取引現場での観察、情報収集が大切です。取引先の異変はすぐに広まるので、特に営業担当者は常に注意しておくことが大切です。期日通りの入金情報、手形、小切手であれば取引金融機関の変更、支払期日の変更など経理・財務での情報と営業でできる確認を併せて行うことが大切です。

取引先に関する悪い噂や不安情報を入手した時は、出所や信頼性を確認します。同時に現在の取引状況、契約書など取引条件の確認を行い、必要に応じて現金決済など回収条件の変更、取引縮小・撤退を検討します。全社で同じ情報を共有しておかないと予想外の損失を被ることになりかねません。

撤退決定後の留意点として、まずは素早く行動することが重要です。自社が撤退したことが取引先に知られれば噂は急速に広がります。撤退と保全は同時進行で行います。他社に知られる前に行動することが重要です。資産状況を確認し、担保設定、債権譲渡契約などで保全を図ります。その際には弁護士など専門家に協力を仰ぎ、速やかに対処します。

2. 変化が起きた時の対応策

手形期日が延長されたら延滞利息を請求するなど、変化をうやむやにしない姿勢を見せることも必要です。また、手続きを経ずに与信限度額以上に売込み債権が発生していないかも注意します。社内での情報共有を密にすることで貸倒れを未然に防ぎます。

取引先の業績悪化の兆候と対策 ～変化への対応～

＜ご提案のポイント＞

- ・取引先の業績悪化の兆候にはどのようなものがあるか、発見した場合は原因調査と対策を行います
- ・兆候を発見するために人、物、金の視点でチェックします。
- ・不良債権が発生した場合の影響を理解し、普段から社内で情報共有します。

1. 業績悪化の兆候にはどのようなものがあるか

取引先に起こる変化の兆候には以下のものが挙げられます。①業績の悪化：赤字決算、債務超過など、②資金繰り悪化：支払遅延、給料遅配、借入金過大など、③取引先、支払手段の変化：取引金融機関の変更、少額の手形決済など、④資本構成の変化：大株主の交代など、⑤役員の変化：外部からの役員、経営者の急逝、後継者不在など、⑥役員・幹部社員・従業員などの退社、⑦クレームの発生：品質管理、納期遅れなど、⑧不良債権の発生：大口取引先の動向、⑨巨額の設備投資：借入金の増加、需要予測、⑩担保設定：新規の担保差入、動産・債権譲渡登記など

変化をキャッチした場合は事実確認とともに原因を把握します。

2. 変化の兆候を発見するために気を付けておくこと

変化の兆候は人、物、金の視点でチェックします。①人は経営者、役員、幹部社員の動向に注意します。経営者の目が行き届かなくなると社内にトラブルが発生しやすくなります。その結果、解決に力をそがれてしまいます。②物に関しては品質管理、在庫管理が重要です。変化があったときはその理由を確認し、一時的か構造の変化かの調査判断することが大切です。③金に関してはキャッシュフローが滞っていないかを見ます。支払方法の変化、高利金融に手を出していないかなど、兆候を見逃さないようにします。また、社員の不正などにも注意します。

3. 不良債権発生の影響と予防策

不良債権が発生すると直接的には売上債権が回収できなくなり、資金繰りに影響が出ます。倒産した取引先の手形を割引していた場合には買い戻さなければなりません。取引先の倒産により金融機関の姿勢が変化することもあります。大口の不良債権が発生すると、金融機関は不安を感じ、資金繰り表の提出、担保提供、債権譲渡などを求めることもあります。予防策として、金融機関に対しては、大口先を知ってもらい、何か変化があれば情報提供を受け、早めに手が打てるような関係を作っておくことも必要です。社内では取引条件の改定、保全、取引縮小、停止なども検討します。